

カナダ・ブリティッシュコロンビア州における州立知的障害者入所施設の 歴史的閉鎖過程

○ 琉球大学 鈴木 良 (5724)

[キーワード] カナダ、施設閉鎖、知的障害者

1. 研究目的

これまで北欧や米国などの施設閉鎖の歴史的過程について研究され、日本においても紹介されてきた。一方、同じ北米大陸に位置しながらも近年一部の州で施設閉鎖を実現させたカナダの状況については海外の脱施設化研究においても十分に明らかにされていない。カナダ・オンタリオ州での脱施設化政策の過程について、ステイトンや鈴木(2013)の研究がある。鈴木(2013)では、カナダ・オンタリオ州の州立施設において歴史的にどのようなアクターがどのような要因によって施設閉鎖を推進させてきたのかが明らかにされている。その結果、1)親の会であるコミュニティリビング・オンタリオ(以下、CLOと略)によるアドボカシー活動を基盤にしながら州政府の政策主導によって展開され、2)施設閉鎖の根拠として示されたのは市民権などのイデオロギーだけではなく費用対効果という財政的観点であったことが明らかにされている。この点については、ステイトン(Stainton2006)も、カナダの脱施設化の取り組みは社会民主主義的な観点よりも新自由主義的な費用対効果の観点から入所施設の非効率性を批判し、地域福祉サービスの合理性を強調する考え方が背景にあったと述べている。また、パニッチの研究(Panitch2008)は、カナダにおける知的障害者親の会の全国組織であるコミュニティリビング・カナダ協会(CACLと略)が脱施設化政策の進展に多大な貢献をしてきたことを明らかにしている。

本研究では、カナダ全域の脱施設化政策に多大な影響を与えたと考えられているが、その詳細について十分に上げられてこなかったカナダ・ブリティッシュコロンビア州における州立知的障害者大規模居住施設の歴史的閉鎖過程において、知的障害者の親の会と本人の会がどのように関与してきたのかを検討したい。

2. 研究の視点及び方法

研究方法は平成25年度8月15日～9月1日、平成26年度9月13日～26日(予定)のフィールドワークによって情報収集をした。具体的には、インクルージョンBC及びコミュニティリビング協会(CLSと略)、ピープルファースト・BCでの文献収集やインタビューを実施し情報を収集した。また、上記期間以外にも関係者とのメールによって情報を収集した。

3. 倫理的配慮

日本社会福祉学会の研究倫理指針に基づき、本研究で引用・参考とした先行研究文献等の引用、インタビュー対象者の語りの引用の際には細心の注意を払った。

4. 研究結果

ウッドランズ大規模居住施設に息子を入所させていた母のジョー・ディッキーを中心とするウッドランズ親の会(後の CLS)による 1970 年代後半の施設閉鎖要求活動が脱施設化政策に多大な影響を与えたことが分かった。当初施設閉鎖に対し消極的であったインクルージョン BC(州全域の親の会)も CLS の活動に影響され施設閉鎖運動を展開させていく。こうした活動を受けて州政府長官は 1981 年に施設閉鎖宣言を行い、州立大規模居住施設の一つトランキルは 1984 年、グレンデールとウッドランズは 1996 年に閉鎖した。閉鎖過程においてグレンデール問題と呼ばれるトランキルの医療ケアを必要とする重度知的障害者の退所先をグレンデールとする州政府の決定が出されたが、その際にもインクルージョン BC をはじめとする主要な親の会の活動によってその決定を覆すという出来事があった。

親の会主導による施設閉鎖の取り組みが推進されていったが、知的障害者本人の会が積極的に参与することができない状況も一方でもたらしていた。しかし、施設閉鎖後の施設内の経験についての証言の収集活動、ウッドランズ記念庭園の建設、虐待を告発するレポートへの反応、施設解体セレモニーの主催といった入所施設の遺産を次世代に伝える活動において、本人の会が組織的に関与していることが明らかになった。

5. 考察

本研究を通して明らかになったことは第一に、ブリティッシュコロンビア州ではウッドランズ親の会が脱施設化の取り組みを主導しており、インクルージョン BC や CACL という制度化された親の会とは独立した形で運動が展開されている点に一つの特徴があるということである。オンタリオ州が CL0 のみによって推進されていたのとは異なる。第二に、施設閉鎖後の入所施設の遺産を次世代に伝える活動において、本人の会が組織的に関与していることが明らかになったが、この点も他州には見られない一つの特徴である。いずれにしてもカナダの脱施設化の取り組みは、親の会によるアドボカシー活動の結果として展開しており、この点では米国の法廷訴訟や北欧の法律による脱施設化の取り組みとは異なると言えるのではないだろうか。各国の脱施設化の取り組みを主に推進していくアクターはいかなるものなのかを検討することを今後の研究課題としたい。

参考文献

- Panitch, M. (2008) Disability, Mothers, and Organization, A Routledge Series
- Stainton, T. (2006) The Evolution of Community Living in Canada: Ontario, 1945-2005, Welshman, J. and Walmsley, J. eds. Community Care in Perspective- Care, Control and Citizenship, Palgrave, 135-145.
- 鈴木良 (2014) 「カナダ・オンタリオ州における州立知的障害者入所施設閉鎖の歴史的過程- コミュニティリビング・オンタリオの活動に焦点を当てて-」『京都女子大学生生活福祉学科紀要』10, 1-9